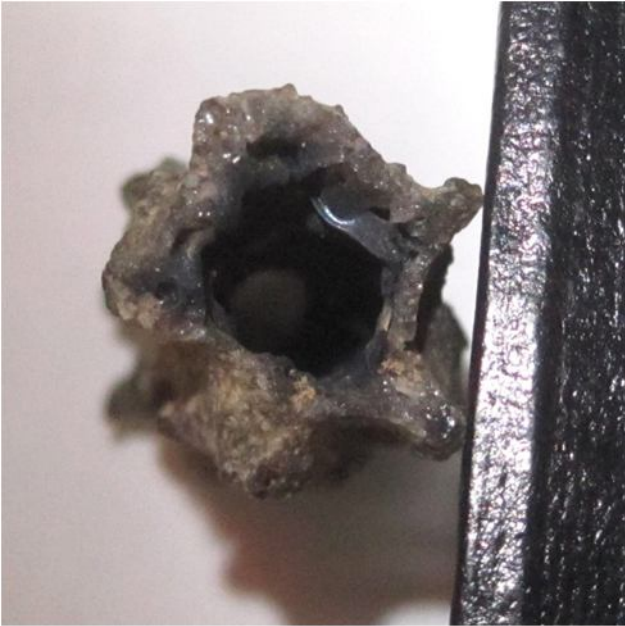


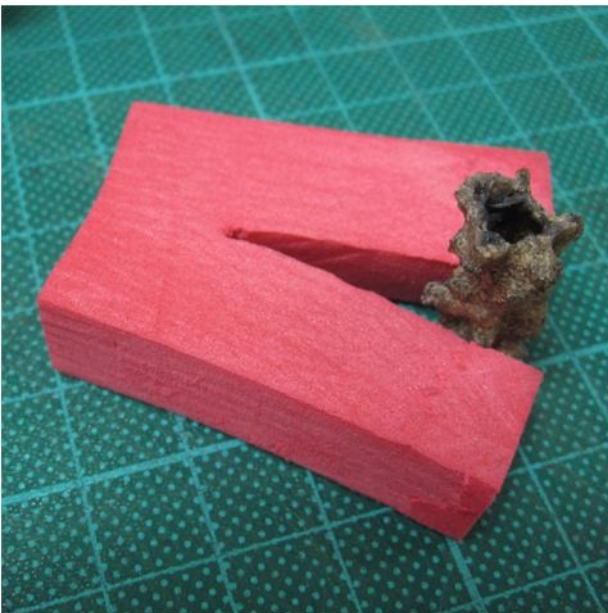
## 「雷管石 (2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

「雷管石」は、電光(稲妻)の通り道の周囲の砂が融けて、その通り道を管状に残して固まった「雷の化石」だ。従って、管状になっていることがわかる写真を撮らなければ意味がない。これが意外にも難しい。



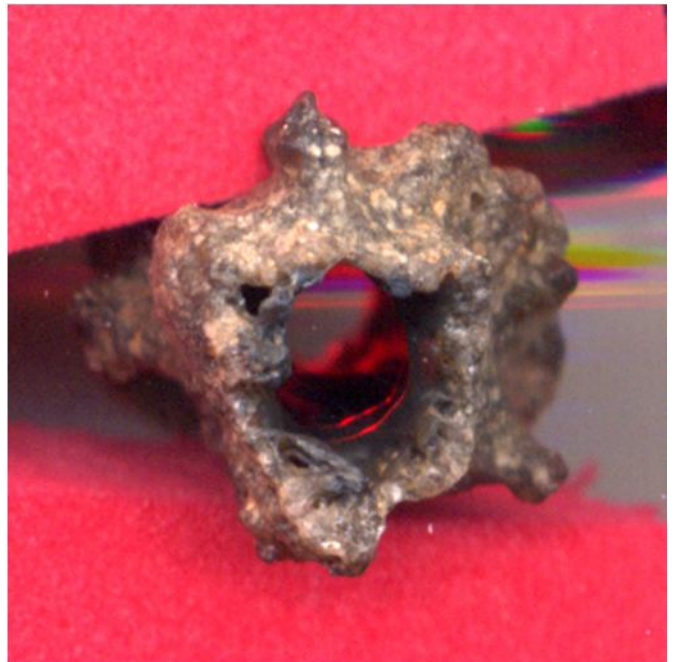
最初は、普通にデジカメで撮ってみた。ピントも甘く、細かい結晶の様子もよくわからない。右側の黒帯は、倒れないように寄りかからせた、支えの箱。



今度はスキャナーでの撮影を試みた。まずは、安定して立つように、写真のようなものを自作した。素材はポリエチレンフォーム(プールのビート板と同じ素材)で、これなら非常に脆い雷管石を痛めない。



これが、スキャナーで撮影した雷管石。富士山の火山洞窟にある、「溶岩鍾乳」にそっくりである。この方法だと、管になっている様子や、細かい組成までわかる。ところどころ小さな穴があるが、これは落雷時に、砂の熔融に伴って発泡した痕跡である。



更に内部の様子を知る為に、スキャナーで読み取り中に、上から赤色LEDの照明を当ててみた。溶岩洞窟のように、妖気漂う写真になった。今度は、輪切りにして、薄片を顕微鏡で観察したいと思った。